

【鹿島市】校務DX計画

【鹿島市の現状】

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果によると、鹿島市では、保護者や児童生徒・教職員への「調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計しているか」との問いについて、「一部している（半分以上）」、「完全にデジタル化している」との回答が6割以上となっており、各種調査でのクラウド利用が広がってきている。

また、「職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化しているか」は、約7割が積極的に取組を行っており、「教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れているか」については100%が「取り入れている」との回答をしており、校務でのクラウドサービス活用が進んできているところである。

【課題】

一方で、児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡や業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項、保護者へ発信するお便り・配布物、学校への提出資料の受付、保護者との日程調整などクラウドサービスを利用した取り組みについて、改善できる部分もある。

また、1人1台端末の毎日の持ち帰りやクラウドサービスを利用した連絡や宿題、小テスト等へのCBT活用など、学習へのクラウドサービス活用についてもさらなる推進が必要となっている。

校務では、教材等の共有、授業研究会等での活用などの利活用を検討する必要があり、教職員から学校へ提出する事務手続き書類や日常業務のFAX利用削減、押印で必要な書類の見直しなど、効率化や見直しが必要である。また、校務支援システムへの不必要な手入力作業を一掃するなど、運用見直しによる効率化についても取り組みが必要となっている。

【今後の取組方針】

- ・保護者から学校への連絡・配布物の配布、提出資料の受付、日程調整など、クラウドサービス活用及びペーパーレスの取り組みを推進する。
- ・1人1台端末とクラウドサービスを活用した連絡や宿題、小テストへのCBTの活用などの取り組みを行うことで、児童生徒の1人1台端末利活用を進めるとともに、教員の業務効率化とペーパーレスの取り組みを推進する。
- ・FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。
- ・押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。

- ・県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。
- ・校務支援システムのクラウド化を行い、学校の垣根を超えた情報の交換を円滑にできるようにし、校務の効率化を推進する。
- ・校務支援システムへのデータ取込やデータ連携を行うことで、不必要な手入力作業を一掃し校務を効率化する。